



この店はエアコンには無縁、だから通りに面して常にオープン、代金は40バーツ（約140円）

宿泊ホテルの近くを散歩中、通りの床屋を一寸覗きいて撮影した。

海外に長期滞在した時、どうしても、お世話にならなければならないのがその土地の床屋である。

こればかりは、「自分で」というわけには行かない。

でも、言葉が通じないだけに、大きな不安（恐怖）がつきまとう。

黙ってお任せすれば、写真の若者のようなタイ・カットになりかねない。

切り過ぎれば、すぐには元に戻せないのだ。（時間が解決はしてくれるが）

そこで、まずは、土地の言葉である「少し」という言葉をマスターすることから始まる。

タイ語では「リンノイ」である。

そして、これを連発しながら臨み、作業動作と状況の観察に全神経を傾ける。

途中、必要に応じ、カバーから手を出して、手振りで指示をださなければならないのである。

無事に完了したときの安堵と満足感。

これこそ、海外生活の醍醐味である。